



高知県立幡多けんみん病院

広報誌

はた家

はたの家族の健康をはぐくむ《はたけ》でありたい

vol.7 2023.8

特集

副院長就任のご挨拶

特定看護師・
特定認定看護師の紹介



副院長就任のご挨拶

患者の意志を尊重し、
良質な医療を提供するため
安心・安全なチーム医療を実践していきます。

副院長 野島 祐司

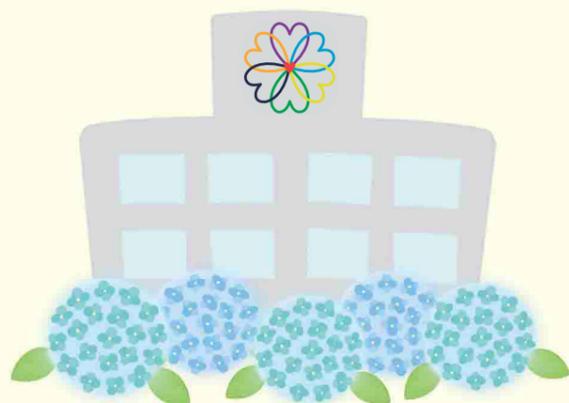
Profile
野島 祐司 のじま・ゆうじ

日本脳神経外科学会認定専門医 / 指導医
日本脳神経血管内治療学会専門医
日本脳卒中学会専門医 / 指導医
日本脳神経外科コンgres
日本脳卒中の外科学会
日本認知症学会専門医 / 指導医
日本 DMAT / 統括 DMAT

私は、幡多けんみん病院が開院した平成11年4月に脳神経外科として赴任しました。ちょうど脳神経外科では直達外科手術ではない脳動脈瘤コイル塞栓術、血管形成術などの新しい脳血管内治療(カテーテル治療)が始まった時期でした。その後、アルテプラールゼ静注療法や経皮的血栓回収療法などが導入され虚血性脳卒中に対する迅速な治療が発展し、現在に至っております。当院は365日24時間患者の受け入れを行う「一次脳卒中センター」としての役

割を担っており、私は主に脳血管内治療の責任者として従事してきました。また、当院は幡多医療圏唯一の二次救急病院で災害拠点病院でもあります。救急外傷分野ではメディカルコントロール検証医、外傷病院前救護プログラム(JPTEC)のコース担当医、災害分野では災害医療派遣チーム(DMAT) / 災害医療コーディネーターとして従事しました。幡多地域の救急災害医療学習会の一つである「四国西南メディカルラリー」の運営にも関わり、他施設の医師、看護師、消防・救急救命士の皆さまと顔の見える関係を構築することができました。新型コロナウイルスのため活動が制限されておりますが、本年度からの再開を模索しております。この場をお借りして、関係医療機関の皆さまに御協力を賜りますようお願い申し上げます。

当院では脳神経内科、精神科常勤医が不在の時期があったため、脳神経外科でも認知症の診療も担当しました。認知症専門医として認知症サポーター委員会に活動し身体抑制の減少への取り組みに従事、医療安全分野においては医療安全推進者、認定医療コーディネーター(対話推進者)と



副院長就任のご挨拶

大きく変化している医療環境に適応しながら、
幡多の医療に貢献していきます。



副院長 川村 昌史

Profile
川村 昌史 かわむら・まさふみ

日本内科学会認定医
日本プライマリケア連合学会認定医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医
日本結核・非結核性抗酸菌症学会 結核・抗酸菌症認定医
ICD 制度協議会認定 ICD
がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会修了
日本メディエーター協会認定医療対話推進者

日頃より幡多けんみん病院の運営についてご協力いただきありがとうございます。私は令和5年4月より副院長に就任しました川村昌史と申します。

平成11年4月に県立宿毛病院に赴任し、県立西南病院との統合により設立された幡多けんみん病院に開院当初から勤務しております。現在令和5年ですのでけんみん病院に勤め始めて24年目になります。けんみん病院に赴任する前にも大月町国保大月病院に1年、宿毛市立沖の島へき地診療所に1年2か月お世話になっていましたので、私の医師人生の大部分を幡多で送らせていただいています。幡多地域の皆様には長年に渡り医師として育てていただき大変感謝しております。

これまででは内科部長、感染管理部長、研修管理センター長として内科の運営や院内感染対策、新型コロナウイルス感染症への対応、初期臨床研修などへの対応、地域医療室への対応等を主とした業務を行なっております。矢部院長からは引き続きその分野に注力するよう命じられております。加えて今後はより広い視野を持って、けんみん病院のみならず、幡多地域の医療全般に貢献できるよう努めて参ります。

けんみん病院では当院の理念である「患者さん中心の医療」を大切に、安心して医療を受けたいという患者さんの声に耳を傾け、安全な医療を提供することを目指してまいります。御指導、御支援のほど何卒宜しくお願いいたします。



新体制になりました。

令和5年4月より副院長を拝命いたしました野島祐司と申します。微力ではありますが、矢部院長をサポートし、よりよい病院を目指して職責を全うしていきたいと思っております。

謝しております。けんみん病院に赴任してからの月日の中で、医療を取り巻く環境は大きく変化してきました。人口減少や高齢化の問題、複雑な医療問題の出現、局地的な豪雨災害や今後発生が予測されている南海トラフ大地震への対応など災害医療への取り組み、最近急激に発展してきている情報通信技術(Information and Communication Technology)の有効活用、平成21年の新型インフルエンザや令和2年に突然現れた新型コロナウイルス感染症を始めとした新興・再興感染症への対応、働き方改革への対応など解決すべき課題が山積しております。

今回、矢部院長から医療安全、臨床倫理、災害・救急などに関して担当するように仰せつかりました。患者中心の医療の推進として患者の意志を尊重する医療、良質な医療の実践として診療ケアにおける質と安全の確保が重要な課題と考えております。患者さん中心の視点を大切に、安心・安全なチーム医療の実践にむけて精進する所存です。御指導、御支援のほど何卒宜しくお願いいたします。

1. 幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や、保健・福祉・介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指す。
2. 地方公営企業として、地域医療をとおり地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営を行うっていくことを目標とし、当院の基本方針である、
1. 正確で間違いのない医療
2. 十分に説明をする医療
3. 透明性を大切にする医療
4. 患者さんの希望を大切にすることを大切に

を提供できる、幡多地域の中核病院であるために当院職員とともに日々研鑽に努める所存です。加えて地域住民の皆さまのご理解、ご協力無くして当院が地域の中核病院として機能していくことは難しいと考えております。引き続き幡多けんみん病院をよろしくお願いいたします。

時永 悠生

4月より幡多けんみん病院で研修させていただいています、時永悠生と申します。研修が始まり2か月が経とうとしておりますが、新しい環境に慣れるので精一杯で何をするにも時間がかかり、指導の先生方や看護師の方々をはじめ多くの方にご迷惑をおかけしています。そのような自分にも困っていると声をかけてくださったり、相談に快く応じてくださる皆様に大変感謝しております。また、研修医として働く中で自らの知識、技術不足を感じるとともに何か起こった際に冷静に思考をまとめて、迅速に対処することの難しさを実感しております。先生方、看護師の方々の対応の速さに着いていくのがやっとのことも多いですが、そこから少しでも多くのことが学び取れるように日々意識して努力したいと思います。2年間の初期研修という短い期間ではありますが、どうぞよろしく願いいたします。

前田 颯生

筑波大学出身、研修医1年目の前田颯生と申します。これから2年間幡多けんみん病院で働かせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。けんみん病院で1か月半を過ごしてみて、少しずつ病院の業務というものに慣れてきました。先生方もコメディカルのスタッフさんたちも、何もわからない研修医に対して優しく教えてくださり、まずはお手本を見せてくださってから色々な経験をさせてくださるのでとてもわかりやすく学ぶことができます。また、業務以外でも気さくにお話をしてくださったり、コロナもだいぶ落ち着いてきて歓迎会などを開催してくださるので、楽しく研修を行うことができます。本当にありがとうございます。まだまだできることは少ないですが、なるべく早く力になれるよう精一杯頑張っていきますので、これからもご指導よろしく願いいたします。

笹岡 祐良

医師になって早2か月がたとうとしています。大学の頃座学で学んだ知識でなく、自らで考え動く力の大切さを考えさせられる2か月でした。実際に自分が症例を経験したり、検査のオーダーを出したりしなければ頭に入らないということも痛感しました。小児科、麻酔科を周り自分はこんなにも手技ができないものかと方にはへこんで涙目になりながら帰路につく日が続きまして、。それでも先生方や看護師さんが見捨てずに丁寧に教えてくださり、明日こそは頑張ろうと研修に励めています。職員の方々皆さん優しく、本当にありがたいです。教科書からだけでなく、実際に患者さんから学ぶ姿勢を大切にしながらこれからの実習にも励んでいきたいです。まだまだ頼りない私ですが、早く一人前の医師になれるよう日々自己研鑽をし、幡多の医療を支えられる人材になれるようにこれから精進していきたいと思っております。何卒よろしく願いいたします。

日高 利紀

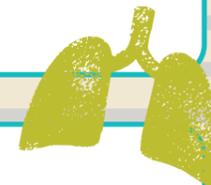
高知大学出身、研修医1年目の日高利紀と申します。1か月研修医として過ごしてきて、職場の雰囲気には慣れてきましたが、知識量などまだまだ未熟さを感じています。宮崎県出身ですが、幡多地域の環境や人柄に魅力を感じていて、高知県に残る選択は正解でした。3年目以降も高知県に残っているのならば、将来は循環器内科に進もうと思っています。趣味はバスケットボールとボルダリングで興味がある人はいつでも声をかけてください。医師としての自覚をもって、よく学び、すぐに動けるように頑張りたいと思います。2年間よろしく願いいたします。



研修医の紹介

林 佐京

高知大学出身の林佐京と申します。釣りが大好きで、学生時代からよく宿毛や大月に来させてもらっており、幡多の魅力にとりつかれております。釣りの合間に仕事をするようなことにならないよう、高知県のために少しでも早く力になればいいと思っています。これからは海だけでなく、山や川にも足を伸ばしていきたいです！それはさておき、大学生活はリモート授業の影響もあり気の向くときに勉強したり食事したりと…といった生活で、仕事が始まってからはそうも行かず、日々自分に打ち込んで規則正しい生活を心がけるようになりました。医師として患者さんに信頼して頂けるよう、まずは自分の生活を律し、日々の業務を確実に丁寧にこなしていきたいと思っております。また、先輩医師や看護師さん、その他病院スタッフの皆さんから学ぶ姿勢を忘れず、謙虚さとハングリー精神を持って、成長できればと思います。どうぞよろしく願いいたします。



西山 典寛

初めまして！高知大学から来ました、初期臨床研修医1年目の西山典寛と申します。四国西部の医療の岩、幡多けんみん病院で毎週、毎日、毎時間、新たな学びを得ながら刺激的な日々を送らせていただいております。はじめは、オーダーの出し方どころか院内の移動すら危うかった僕が、指導して下さる先生方、パラメディカルスタッフの皆様、事務の皆様、とても頼りになる同期の仲間たち…そして、まだまだ未熟でしかない僕を頼りにして任せてくださる患者さんのお陰で、少しずつできることが増えてきました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、強い責任感を持って業務に励みたいと思っております。医師としても社会人としても、まだまだ至らぬ点も多いかとは存じますが、一日でも早く幡多けんみん病院の医療、ひいては幡多地域全体の医療に貢献できるよう日々全力で精進して参ります。まずは初期臨床研修の2年間、何卒よろしく願いいたします！

井浦 健太

はじめまして。幡多けんみん病院研修医1年目の井浦健太と申します。香南市出身で高知の西の方に行ったことがあまりなかったのですが、高知大学の実習で幡多けんみん病院でお世話になった際にぜひここで一スタッフとして働きたいと強く思い、ご縁あってこの春から働かせて頂いております。最初の1か月は環境の変化に慣れることで精いっぱいでしたが、翌月からは徐々に慣れてきて先輩方にご指導いただきながら楽しく働くことができます。一人前になるのはまだ先のことには思いますが、一スタッフとして幡多地域の医療を支えるという強い志をもってこれからも頑張りますので、よろしく願いいたします。



創傷ドレーン関連 6階病棟 有岡砂智

私は、令和5年3月に特定行為研修2区分(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、創部ドレーン管理関連)の研修を修了しました。実務経験は少なく今後、研鑽していく段階ではありますが、医師の手順書の範囲内で輸液調整や創部ドレーン関連の皮下ドレーンの抜去を行うことができます。特定行為を行うメリットは沢山ありますが、看護と医学的視点による包括的アセスメントが行われることでより安全に、患者さんの満足度を高められることに意味があると思っております。さらに、今後は特定行為を看護に活かすために、乳房切除後の創部の受容や整容性への支援、創部ドレーン抜去後の管理の退院指導を病棟・外来間で連携し、継続看護に繋がられるようにしたいと考えております。今後とも宜しくお願いします。



特定認定看護師

抗精神病薬投与など 認知症特定認定看護師 岡本紀子

私が行う特定行為は、持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正、抗けいれん薬の臨時的投与、抗精神病薬の臨時的投与、抗不安薬の臨時的投与、の5つの行為です。認知症看護では、高齢者を対象にすることが多くあります。高齢者の特徴として、脱水(体の中の水分が足りなくなる)になりやすいのに、のどが渇いたと感じにくく、重症になるまでご本人も気が付かないことがあります。それから、入院している高齢者は様々な理由から口から食べることができない状況になることもあります。予備機能が低下しているため、低栄養の状態になりやすく、入院の原因となった病気の治療に支障が出ることもあります。入院すると、体のしんどさに加えて、普段と違う環境に混乱し、せん妄(一時的に、色々なことが分からなくなって点滴や酸素を外してしまう)をおこすことがあります。また、不安に感じて夜間眠れなくなることもあります。そのような高齢の入院患者さんに対して、栄養、水分の状態を観察し、必要であれば手順書(あらかじめ医師と一緒に作成した約束事)の内容と照らし合わせて、点滴で補給することができます。

抗菌薬投与 感染管理特定認定看護師 濱田健二

私ができる特定行為は、「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」「脱水症状に対する輸液による補正」「感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与」です。感染症の場合、多くのヒトは体内に入ってきた細菌や、ウイルスと戦う機能を持ち合わせています。その戦いの反応として、発熱であったり、組織が腫れたり赤みを帯びたり、咳をしたりといったサイン(症状)を出すようになっていきます。目には見えない体内でのこうした戦いに何もせずに勝てる(軽快する)場合もありますが、この戦いに少しばかり体の外から武器を与えてあげると、戦いの期間が短くなったり、戦いにおけるヒトの体の負担が軽くなったりします。この体の外から与える武器の一つが「抗菌薬」です。痛みや発熱、発赤、腫れ、痰や呼吸回数の増加など体の異常な症状を察知し、どの部位の感染症が疑われるのか、またどういった細菌による感染症なのかを考え、適切な抗菌薬を早期に投与することは、治療期間や身体負担に大きく影響します。迅速な対応は患者さんにとって身体的負担の軽減につながり、特定行為の大きなメリットの一つとも言えます。

特集 特定看護師・特定認定看護師の紹介

特定看護師とは、特定行為を実施する上で必要とされる、高度な知識・技能を有する看護師です。超高齢社会を迎え、チーム医療や将来的な在宅医療の重要性が見直される中で、看護師の役割拡大が求められ、平成27年「特定行為に係る看護師の研修制度」が施行され、保健師助産師看護師法の改正により特定看護師が誕生しました。当院では、4名の特定看護師と、2名の特定認定看護師が誕生し、医師の包括的指示、手順書をもとにタイムリーに診療の補助業務を行っています。



特定看護師



術中麻酔管理領域 手術室 松岡愛美

私が行っている特定行為は、麻酔中の患者さんの呼吸管理、輸液管理、硬膜外カテーテルからの鎮痛管理などを麻酔科医の指示のもと手順書に基づいて実施しています。また麻酔管理以外にも、手術室看護師が麻酔科医の麻酔管理に対する考えを理解することは、より質の高い手術看護の提供にもつながり、患者さんが安心して手術を受ける環境づくりのひとつになると考え、指導的な役割も担っています。今後も麻酔科医と協働して、周術期にある患者さんが安心して手術が受けられるように自己研鑽に努め、麻酔管理の補助を行い、さらに今年度から手術室外で可能な特定行為について院内の医師にも発信していき、活動を拡大していきたいと考えています。



救急医療コース ICU 田村ちせ

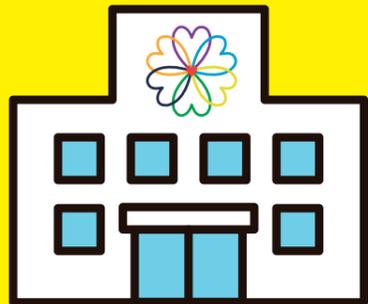
私が修得した特定行為は救急分野に特化したものですが、集中領域と重なる行為も多く現在は救急外来やICUでの実施が主となっています。具体的には、救急外来での直接動脈穿刺採血や輸液管理、けいれん対応、ICUでの動脈ラインの挿入や人工呼吸器、気管チューブの管理などを医師の指示や指導のもと実施しています。時折、病棟でも動脈穿刺やNPPVの設定変更なども実施しています。また、私が所属する救急・ICUは、クリティカルケアを提供しなくてはならない場所であるため、高度な医療や全身管理、早期回復についての知識や技術、経験が必要であるため、そのためのスタッフ育成にも関わっていきたく思います。院内チーム医療の一員として、自己の役割を考えながら、医師と協働しタイムリーで安全な医療が提供できるよう、そして自律・自動でできる看護師を目指して精進していきたく思います。今後は、各診療科の医師や病棟スタッフに、特定看護師の役割を広く知ってもらい、有効活用してもらえよう他の特定看護師と協力しながら活動していきたく思います。

集中治療コース ICU 岡本綾子

私は7区分12行為を取得しました。集中治療や救急医療などのクリティカル領域は、呼吸状態や循環動態が不安定、電解質異常といった重症な患者さんが入院され人工呼吸器装着や高度な医療が展開されます。刻一刻と変化する患者さんの病態や状況を的確に予測、把握して異常の早期発見、対処が求められます。麻酔科医や主治医がほかの緊急処置や診療時に、動脈ライン挿入と血液ガス測定、呼吸器の設定変更、鎮静剤やカテコラミンなど薬剤投与の調整を行い、医師を待つことなく介入し、より早く患者さんに安全、安楽を提供できるよう努めています。今後は、常日頃から医師と共働きディスカッションを重ねることで、医師との信頼関係の構築、自己研鑽を行うことや安全面への配慮を忘れず、安全な医療・看護の提供に尽力していきます。

pick up!

当院にあたらしい 電子カルテシステムが 導入されました



当院では、令和5年2月27日から患者さんに、より快適な医療を提供するために、最新の設備を取り入れました。

電子カルテシステムの更新に合わせ、外来診療をよりスムーズに進めるために、診察順番表示盤、スマホ呼出アプリ、自動精算機を導入しました。

B ブロック	診察中	まもなく呼びます	進行状況
1 診 内科予約(佐田)	136	75	48
2 診 内科予約(中村)	176		
3 診 内科予約(安田)	133		
次の方は受付まで			

本日の呼出し番号になります。また、診察する順番ではない。

8 診	担当医 泌尿器科予約(澤田)
83	番の方
8 診	へお入りください

て・・・来院時は、毎回必ず診察券をお持ちください。お待ち



■診察順番表示盤システム
診察順番表示盤システムは、患者さんの診察順番を表示するシステムです。従来は患者さんのマイクで呼び出しておりましたが、新しいシステムではモニター画面から番号で呼び出すように変わりました。番号札は再来受付機からA4サイズの用紙で打ち出されます。これにより、患者さんは自分の順番がどれくらいなのか分かるようになりました。また、医療スタッフも患者さんの情報を素早く確認できるため、診療の効率化にもつながっています。



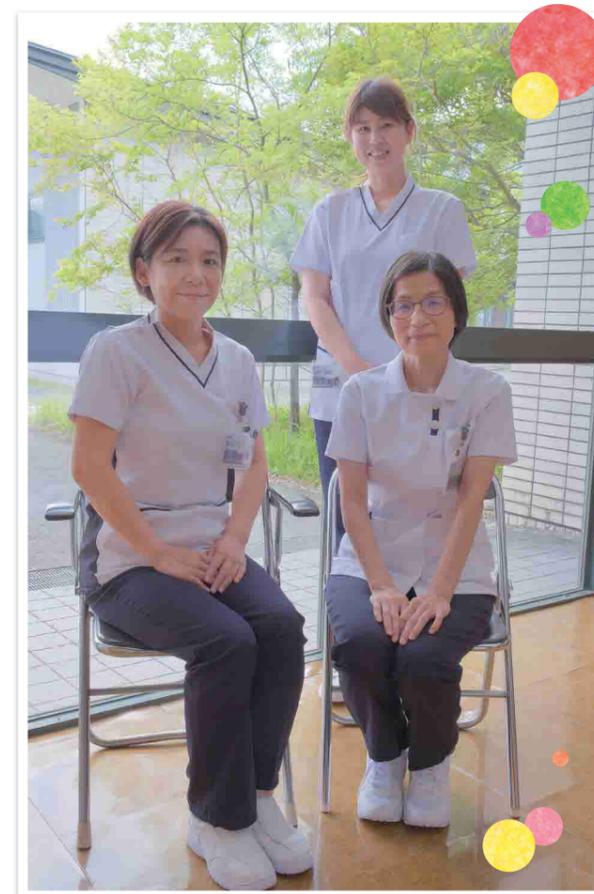
看護外来について

看護外来は、患者さんが退院後も継続して在宅療養ができるよう支援することを目的として、専門知識を持つ看護師が患者さんやご家族の相談に応じたり適切なケア方法を指導したりするところです。当院では、令和5年5月8日から3つの看護外来を開始しました。まずは、医療相談室(0880-66-2222(代表))にご相談ください。

脳卒中看護外来 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 加用樹里

脳卒中は急性期の治療が終わった後もリハビリや療養のため転院や、自宅退院された場合でも後遺症などがある場合は、生活の工夫を行ったり、脳卒中が再発しないような生活習慣を身につけるなど新しい生活スタイルへ変化させる必要があります。また、脳卒中の症状は患者さんによって異なり、生活環境も違うため、患者さんやご家族が抱えている困りごとは多岐にわたるかと思います。ちょっとした困りごとでも構いませんので心配なことや相談したいことがありましたら診察の待ち時間やお時間のあるときに、当院の脳卒中相談窓口をご活用ください。

相談内容は、脳卒中再発予防に関する内容や、再発時の対処方法、後遺症、リハビリ、内服管理、障害者手帳、金銭面などです。社会福祉士やリハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士とチームを作って相談内容の対応をしていきたいと思っております。相談内容によっては、返答にお時間をいただく場合がありますが、困りごとが少しでも解消できるように一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



認知症看護外来 認知症看護認定看護師 岡本紀子

認知症相談の窓口は、患者さんとそのご家族が、住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、専門的な知識を持った看護師、医療相談員が、相談対応、支援をさせていただきます。相談内容は、もの忘れが気になる、検査や治療について知りたいなど、なんでも構いません。ご本人がなかなか受診に応じてくださらないなどの相談にも対応しています。当院には多くの診療科がありますので、外来受診の機会に相談していただくことも可能です。外来通院中の方はもちろん、初めての方、相談のみにも対応していますので、お気軽にご連絡ください。ご相談いただいた内容は、ご本人、ご家族の同意なく他の医療機関、公的機関に知らせることはありませんので、ご安心ください。*待ち時間に相談いただけるよう、また、長時間お待ちすることがないよう、相談日時の予約をお勧めしています。

がん看護外来 がん看護専門看護師 上田三智代

がんは2人に1人がなる病気です。昔は不治の病とされていましたが、がんの治療が進歩することで、がんとともに生きる期間が延長されています。外来ではがんという診断や再発を伝えられ、気持ちが落ち込んだ状態で自宅に帰る患者さんや病院に長く入院できず、不安を抱えたまま退院され、外来通院している患者さんもいらっしゃいます。がんの治療は複雑で難しいですが、抗がん剤治療や放射線治療も外来で行われています。家族ががんになった時、家族としてどのように支えていくか分からないまま、患者さんに付き添ってこられるご家族や、医師の説明や薬の名前が難しく分からないこともあると思います。がん看護外来は、患者さんやご家族の悩みや不安について相談をお受けする外来です。病気や治療のこと、療養生活のことなど、お困りなことがあれば気軽にお立ち寄りください。

満点レシビ

delicious & healthy

栄養科
管理栄養士
井上 那奈



- サッパリとしたレモンの酸味とシソや貝割れの風味で食欲が無いときや暑い日にも野菜をたくさん食べられます。塩分が気になる方は塩少なめで黒コショウ多めにレモン果汁をたっぷりかけるとおすすめです。レモンの代わりにスダチも合いますよ！

lemon carpaccio of Isaki

- 【2人分】
 イサキ(刺身用) 100g
 レモン 1個
 トマト 1/2個
 青じそ 2枚
 貝割れ 1/3株
 レタスやベビーリーフ 適量
 オリーブオイル 大さじ1
 塩 小さじ1/4
 黒コショウ 少々

「イサキのレモンカレパッチョ」

- ①レモンは薄い輪切り、イサキは5cm程度に薄切りにする。
- ②レタスやベビーリーフは冷水にかるくさらした後水切りしておく。
- ③トマトは半月切り、青じそは細切り、貝割れは食べやすい長さにカットする。
- ④大きめの皿にレモン、イサキを並べ、②と③を盛り付ける。
- ⑤オリーブオイルを全体へ回しかけ、塩・黒コショウをふる



杉村 OTの HATA再発見

今回の紹介は…『貝ヶ森』

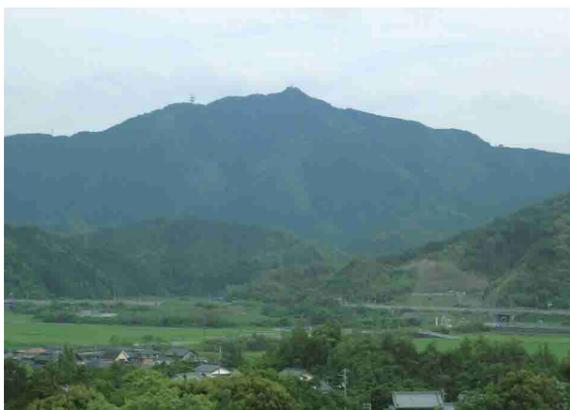
貝ヶ森という場所を皆さんご存じですか？当院の東側から外を見ると貝ヶ森という山が見えます。一見、普通の山にみえますが、いろいろな歴史があるようなので少し紹介します。

貝ヶ森の由来は、昔このあたりが海だったころ、貝が採れるような島だったからだそうです。その証拠に、貝ヶ森周辺の地域も海に関係する地名が多いようです。

また、干ばつで困っていた頃、雨乞いの祈禱をして、大雨が降り村人たちは大喜びしたという話も残っています。いまでも雨乞いの山としても知られているようです。

窓の外を見るときには、是非、貝ヶ森を探してみてください。各階東側から見るのですが、屋上からみる貝ヶ森の景色もきれいです。気分転換にどうですか？

屋上からも見える！



コンシェルジュ まずはアプリを インストール！

登録開始
Start



けんみんアプリのご案内
-コンシェルジュ-

スマホで予約確認ができます

けんみんアプリ -コンシェルジュ- をはじめました。

来院前
・予約の確認ができます
・前日に診察日をご案内
・受診時
・診察が近づいたことのご案内ができます

アプリの主な機能について
①診察状況お知らせ
②予約確認
③家族登録機能

ご準備いただくもの
①スマートフォン
②診察券又は受付票

アプリ受付窓口

場所 紹介窓口
時間 8時30分～17時



まずはアプリをインストール
※インストール後にアプリ受付
での登録が必要です。



iPhone



Android

注釈) 診察順番表示盤、スマホ呼出アプリについては一部の診療科・医師で対応できない場合があります。あらかじめご了承ください。



■スマホ呼出アプリ(コンシェルジュ)
 さらにスマホ呼出アプリを患者さん個人のスマホにインストールすることで、現在の診察順番や予約状況を確認できます。また自分の順番が近づいたらアプリから通知を受け取ることもできます。これにより、待ち時間中の移動や用事などもスムーズに行えるため、患者さんの負担を軽減することができます。
 スマホ呼出アプリのご利用には、電子カルテとの紐付け作業が必要になります。紹介窓口でコンシェルジュの登録窓口がありますので、ぜひお立ち寄りください。

■自動精算機

最後に診療費の支払いについて、自動精算機を導入することで、診察後の会計がスムーズになりました。患者さんは、会計窓口の横に設置された自動精算機を操作することで、支払いを簡単にできます。支払い方法は現金のほか、クレジットカードにも対応しています。案内係がおりますので、操作が不慣れな方も安心してご利用いただくことができます。
 会計順番については、診察順番と同じようにモニター画面に表示されます。番号札については、診察の時に使用したものと同じ番号になります。

当院では、今後も患者さんの利便性を追求し、より良い医療を提供できるよう、システムを検討していきますので、ぜひ、ご利用ください。



白い番号の方は
自動精算機へ

黄色い番号の方は
会計窓口へ



薬剤師募集中!!

当院では薬剤師を募集しております。
就活中の薬学生の方、Iターン/Uターンで転職希望の方、
ぜひ一緒に働いてみませんか？

当院内の施設見学も随時受け付けています!

お問い合わせ:

幡多けんみん病院薬剤科(0880-66-2222 ※)

※電話交換職員に「薬剤科をお願いします」とお伝えください



編集後記

長かった新型コロナウイルスとの戦いも異なるステージへと入り、5月8日から5類感染症へ変更となりました。マスク着用も個人の判断に委ねられるようになり、街中ではマスクを外して歩いている人も増えてきつつありますが、病院内でのマスク着用は続けていくこととなっています。ウイルス自体が変わったわけではありませんので、引き続き皆で感染防止に最善を尽くしていきましょう。

さて、令和5年4月から副院長として野島祐司先生と川村昌史先生が就任されました。お二人とも、幡多けんみん病院開院当初から勤務されており、今後も幡多けんみん病院の医療、幡多地域の医療のさらなる発展にご尽力いただけるものと思っております。また、今年度は、17人の新しい医師が赴任し、常勤医師65人体制で診療を行うこととなりました。さらに7人もの研修医が赴任してくれました。看護師も8人の新採用者を含む合計10人が入職し、その他メディカルの職員も多数入職し、幡多けんみん病院は新しい力に満ち溢れています。

今回の「はた家」では、そんな新しい力の源である新副院長のお二人をはじめ、研修医の先生からの挨拶や専門的知識・技能をもった特定看護師、特定認定看護師や5月から始まった看護外来の紹介を掲載しています。また、今年2月より順次導入された、電子カルテシステムや自動精算機、スマホ呼出アプリ(コンシェルジュ)についても紹介させていただきました。

医療スタッフだけでなく、システム面でも患者さんがより利用しやすい病院となるように、止まることなく進化を続けておりますので、職員一丸となり幡多地域の医療のために頑張っていきたいと思っております。

また、今回から「はた家」の編集委員も一部交代となりました。併せてよろしくお願い申し上げます。

小児科 松下憲司